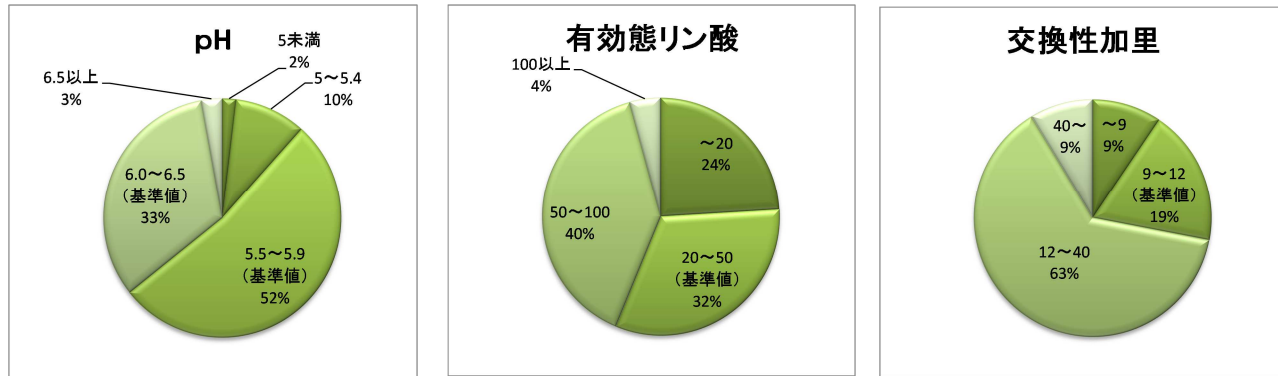


釧路管内の土壤分析値の傾向

① 草地（火山性土）の土壤診断結果の傾向

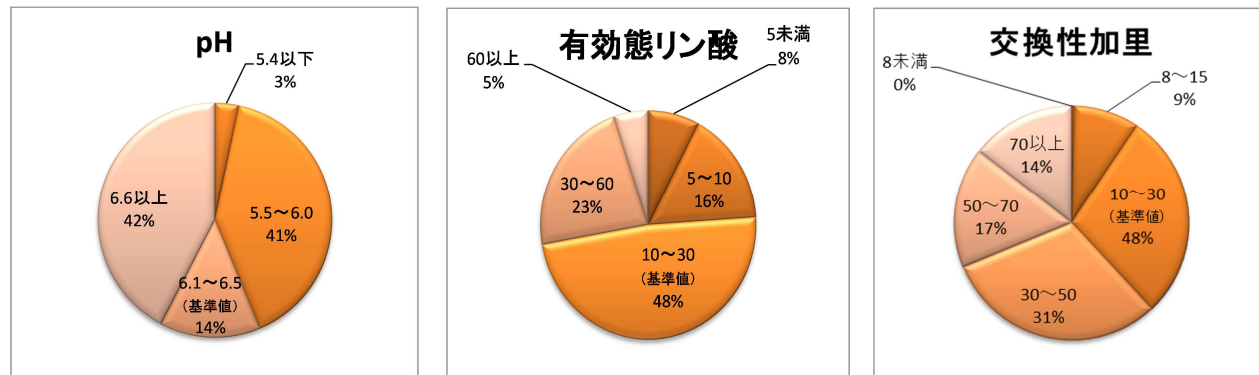
分析点数：1,230点 ホクレン北見土壤分析センター（平成22～24年）



- pHは基準値以内の圃場が85%ありますが、5.5未満の畑も10%程度あります。土壤が酸性化すると植生の悪化やリン酸成分の固定を招くことから、タンカルの散布をお勧めします。（pH維持 40 kg/10a・年、pH改善 200～300 kg/10a・年）
- 有効態りん酸不足の畑が24%、過剰の畑が40%あります。また、交換性加里が過剰な畑が約70%あります。
- 植生の維持改善による良質粗飼料の生産の為に、土壤診断結果を基にした適正施肥の実施をお勧め致します。リン酸、加里の不足は植生悪化を招きます。

② 飼料用とうもろこし圃場の土壤診断結果の傾向

分析点数：230点 ホクレン北見土壤分析センター（平成22～24年）



- pHが基準値未満の圃場が約40%あります。
- 家畜ふん尿の散布等により、交換性加里が過剰は畑が約60%を占めます。一方、有効態りん酸含量は基準値内の畑が約50%占めます。加里過剰圃場には、加里減銘柄等を活用した適正施肥をお勧め致します！（施肥量のみを削減するとリン酸が不足する可能性があります）

～土壤分析用サンプルの採取方法～

◎ 維持管理草地におけるサンプル採取は、下記の方法で圃場の複数箇所（5か所程度（圃場4隅+圃場中央））から行い、それらを混ぜ1サンプルとします。



ホクレン式採土器でのサンプリング

残ったルートマットは除く

土壤を砕いて袋に入れる

草地土壤の採取方法

① 施肥や堆肥・ふん尿の散布前に採取します。
 ② 維持管理段階では草地表面から5cmまでの層を採取し、枯草・草の根は除いて下さい。
 ③ 更新予定地では、耕起後に播種床表面から10～15cmの改良対象土層（但しプラウによる耕起深の違いなどに注意する）となる部分から採取して下さい。

～土壤診断基準値について～

◎ 維持管理草地と造成草地で基準が異なります。良質粗飼料の生産のため基準値を目標に土づくり・施肥管理を行うことをお勧め致します。

	草地維持段階			草地造成・草地更新			単位	備考
	火山性土	低地土・台地土	泥炭土	火山性土	低地土・台地土	泥炭土		
pH	5.5～6.5			6.0～6.5				酸性化すると、りん酸の不可給化、マメ科牧草の生育不良等を招く。
有効態りん酸	未熟30～60 黒色20～50 厚層10～30	20～50	30以上	20以上	20以上	30以上	mg/100g	欠乏すると、牧草の草丈、分けつが衰え、葉幅が細く暗緑色になります。
交換性加里	未熟 7～9 黒色 9～12 厚層10～13	15～20	30～50	15～20	15～20	30～50	mg/100g	欠乏すると、牧草の下葉が紫色を帯びて枯れる症状が現れる。
交換性石灰	未熟150～300 黒色200～400 厚層300～500	15～20	30～50	350以上	400以上	700以上	mg/100g	欠乏すると、牧草の葉脈間が黄変し枯れる症状が現れる。
交換性苦土	20～30	10～20	30～50	25以上	10以上	40以上	mg/100g	欠乏すると下葉が葉肉が黄色し、葉脈が緑色を残す葉脈間クロロシスが現れる。
苦土/加里比	2以上			2以上				苦土に比べて加里含量が多いと（苦土/加里比2以下だと）、土壤中に苦土があっても加里との拮抗作用により苦土の吸収が妨げられる。

※土壤分析診断に関わる詳細は、ホクレン生産資材課または、お近くの農協までお問い合わせ下さい。

